

種豚改良技術確立試験

楠原徹，海老沢重雄，須永静二¹，相馬由和

Establishment of Improved Technique for Breeding Swine

Tooru KUSUHARA, Shigeo EBISAWA, Seiji SUNAGA, Yoshikazu SOMA

要 約

現在の肥育豚は、LW・Dの三元交雑が主体となっている。三元交雑のなかでランドレース種はF₁豚の生産上重要であり、高い繁殖能力、発育能力、優良な資質が求められる。

このため、優良なランドレース種豚を作出し、県内の養豚農家に種豚の配布及び精液の譲渡を行うとともに配布先農家の繁殖能力や産肉能力の情報を得ることにより広域的な改良増殖を図る。

本年度は15腹の分娩で子豚124頭を生産した。育成豚は雌18頭、雄1頭を、精液は6頭分を譲渡した。

キーワード：ランドレース、改良増殖

緒 言

我が国へ最初にランドレース種が導入されたのは昭和35～36年である。まだ大型品種が普及していなかった当時は飼養管理の難しさや繁殖障害が多く出るなどの理由で敬遠されることもあったが、品種の特徴が理解されたことや高い産肉能力により急激に増加し、中ヨークシャー種やパークシャー種等の中型種からランドレース種をはじめとする大型種へ飼養形態が移行するさきがけとなった。その後、改良が進み日本に定着したランドレース種は三元交雑の基礎となる種雌豚として広く用いられるようになった。昭和50年代以降はデュロック種が止め雄として普及し、現在でもLW・Dの三元交雑が肉豚全体の8割近くを占めている¹⁾。

三元交雑におけるランドレース種の役割はF₁母豚生産であり、基礎となる部分である。そのため、高い繁殖能力、産子の発育能力、強健性を子豚に伝えなければならない。高い能力のランドレース種を増殖・配布することは、養豚経営の安定向上に大きな影響を与えるものと考えられる。

この試験は当研究所外から優良な血統の種豚や精液を導入してさらに優れた種豚を作出し、それを県内の養豚生産者に配布することにより、広域的な改良効果を生み出すことを目的とする。

材料および方法

種豚改良に用いた種豚は以前から当所で飼養していたランドレース種と平成15年度に外部から導入したランドレース種。

常時、種雌豚13頭、種雄豚2頭を飼養し、これらの豚及び輸入精液を用いて改良増殖した。

育成豚の選抜にあたっては、検定成績や体型並びに肢蹄の状況等を考慮して行った。

育成豚の譲渡は、7～8ヶ月齢でおこない、精液の譲渡は、随時実施した。

結果および考察

本年度は、15腹分娩し124頭の子豚を生産した。雌乳子豚数は115頭で育成率は92.7%であった。また、子豚の生時および3週齢時平均体重は、それぞれ1.58±0.34kgと7.13±1.53kgであった。

雄5頭及び雌10頭については、(社)日本種豚登録協会の方法により豚産肉能力直接検定を実施した(表1)。

雄5頭の直接検定成績の平均は、1日平均増体重は925.3g、飼料要求率は3.48、ロース断面積は31.0cm²、背脂肪層の厚さは1.85cmであった。

雌10頭の現場直接検定成績の平均は、1日平均増体重は743.3g、ロース断面積は28.8cm²、背脂肪層の厚さは1.75cmであった。

1 現 茨城県南家畜保健衛生所

養豚生産者へ育成豚雌18頭、雄1頭、精液6頭分を譲渡した。

平成17年度の産肉能力は、前年度までの成績と比較して、平均並みかやや低い傾向が見られた。また、全国平均²⁾と比較しても同等あるいはそれ以下の成績であった。繁殖成績のうち生存産子頭数は8.27頭、死産を含む1腹当たりの総産子数は、9.93頭であった。全国平均³⁾の生存産子頭数10.3頭、総産子数11.1頭と比較すると生存および総産子数ともに低い成績であり、死産数が多かったことは、衛生的な要因の関与が疑われる。今後も豚舎の衛生と豚の健康管理に留意するとともに、子豚の体型および母豚の繁殖能力にも注意して選抜改良を進める。また、豚の能力と血統(系統)の関係等も調査し、改良を進める。

参考文献

- 1) 日本の養豚 編集部(2000) 本誌に見る養豚50年の歩み 日本の養豚2000年1月号
- 2) 社団法人 日本養豚協会 豚産肉能力検定全国成績 (H17年度)
- 3) 社団法人 日本養豚協会 豚産子能力検定全国成績 (H17年度)

表1 繁殖成績

分娩腹数	総産子数*	1腹当たり総産子数*	生産子豚数	1腹当たり生存産子頭数	離乳子豚数	育成率	生産子豚平均体重	3週齢時平均体重
腹	頭	頭/腹	頭	頭/腹	頭	%	kg	kg
15	149	9.93(11.1)**	124	8.27(10.3)**	115	92.7	1.58±0.34	7.13±1.53

* : 総産子数, 1腹当たり総産子数には、死産を含む。

** : () 内は全国平均

表2 産肉能力検定成績

項目	検定豚(雄)		検定豚(雌)	
	平成17年度	平成14~16年度平均	平成17年度*	平成14~16年度平均
検定頭数	5	44	10	29
1日平均増体重(g)	925.3±81.4	909.1±35.3	743.3±58.8	790.1±38.9
飼料要求率	3.48±0.47	3.05±0.30	-	3.41±0.11
ロース断面積(cm ²)	29.7±5.4	36.0±4.7	28.8±5.7	36.6±4.3
背脂肪層の厚さ(cm)	1.7±0.3	1.7±0.1	1.8±0.3	1.7±0.1

* : 平成17年度検定豚(雌)は、現場直接検定成績